

と き 令和 7 年 4 月 22 日（火）

ところ 北部公民館 第 1 ・ 2 学習室

令和 7 年調布市公民館運営審議会 第 2 回定例会速記録

開会 午後2時

○安部委員長 定刻となりましたので、ただいまから令和7年調布市公民館運営審議会第2回定例会を開催いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、定足数について事務局から報告をお願いいたします。

○倉持東部公民館主査 事務局から報告いたします。本日、平野委員及び曾山委員から欠席の御連絡をいただいております。そのほか、まだお見えになっていない八田副委員長につきましては、別の会合に出席後、遅れて出席するという御連絡をいただいております。その他の欠席者はございません。現時点において委員9人中6人の委員が出席されておりますので、調布市公民館運営審議会規則第5条に規定されている定足数に達している状況となっております。

以上です。

○安部委員長 ありがとうございます。それでは、定足数に達しているということで、引き続き審議会を進めてまいります。

本日の傍聴の希望者はございますでしょうか。

○倉持東部公民館主査 傍聴は3人いらっしゃいます。

○安部委員長 では、入室をお願いいたします。

(傍聴者入室)

それでは、続いて資料の確認を事務局からお願いいたします。

○倉持東部公民館主査 本日の資料を確認させていただきます。まずは、郵送でお送りしました資料から確認いたします。まず、本日の日程のほか、資料が9つございます。まず、令和7年調布市公民館運営審議会第2回定例会日程です。次に資料1、令和7年4月1日付教育部人事異動報告です。次に資料2、令和7年度調布市公民館職員配置表です。次に資料3、使用状況報告（令和7年1月～3月分）です。次に資料4、使用状況報告（令和6年度分）です。次に資料5、事業報告（令和7年1月～3月分）です。次に資料6、事業報告（令和6年度分）です。次に資料7、社会教育委員の会議（令和6年度第6回定例会）次第です。次に資料8、令和7年度調布市公民館運営審議会開催日程（予定）です。次に資料9、調布市東部公民館開館50周年記念フェスティバルのパンフレットです。

続きまして、本日、机上配付した資料についてです。まず、図書館だより2025春号、とうきょうの地域教育No.154。

以上になります。皆様、お手元におそろいでしょうか。

○安部委員長　　よろしいでしょうか。おそろいですか。

それでは、議事に入ります前に、今回の「公民館だより」への記録につきましては、大槻委員、よろしくお願いいたします。

それでは、日程第1、報告事項、(1)令和7年4月1日付人事異動について及び(2)令和7年度公民館職員配置表について、この2件は関連する内容ですので、一括して丸山東部公民館長から説明をお願いいたします。

○丸山東部公民館長　それでは、(1)令和7年4月1日付人事異動について、教育分及び(2)令和7年4月1日現在の公民館職員配置表について報告いたします。

初めに、資料1を御覧ください。こちらは教育部管理職の人事異動の報告です。公民館関連ですと、北部公民館長に小川香里が新たに着任しております。

続きまして、資料2を御覧ください。令和7年度調布市公民館職員配置表となります。4月1日付で管理職以外の異動者について報告いたします。

東部公民館には、主査に倉持美土子、会計年度任用職員に佐藤一美、黒田凜。西部公民館には、主査に長瀬出。北部公民館には、主査に橋本幸枝、主任に小形健がそれぞれ新たに配属となりました。

令和7年4月1日付人事異動について及び令和7年4月1日現在の公民館職員配置表についての報告は以上となります。

○安部委員長　　ただいまの人事異動に関する報告について、皆様、御承知おき願います。

それでは、改めまして、新たに北部公民館長に着任されました小川館長、それから東部公民館の倉持主査から一言ずつ御挨拶をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○小川北部公民館長　社会教育課から北部公民館に異動してまいりました小川香里と申します。

教育部12年目になります。学校教育と社会教育、そして公民館というところで、地域の皆様の活動の拠点として、ますます楽しく充実したものとなりますよう公民館運営を進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○安部委員長　　ありがとうございます。倉持主査、お願いいたします。

○倉持東部公民館主査　令和7年4月1日付で市民課から東部公民館に異動してまいりました倉持と申します。

私、平成元年度に入所しまして、そのとき教育部にありまして、そのとき以来の教育部でございます。また、新たな勉強、修行だと思って、皆様と共に成長していきたいと思っ

ております。どうぞよろしくお願いいたします。

○安部委員長 ありがとうございました。

それでは、(3)使用状況報告（令和7年1月～3月分）につきまして、丸山東部公民館長から説明をお願いいたします。

○丸山東部公民館長 続きまして、資料3を御覧ください。令和6年度調布市公民館使用状況報告（令和7年1月～3月分）について御報告します。

初めに、1月分です。4ページをお願いいたします。下から4行目、公民館ごとの合計欄を御覧ください。東部公民館においては125単位、1,233人、西部公民館においては132単位、1,522人、北部公民館においては162単位、1,277人の使用がございました。3館合計で419単位、4,032人の使用でした。前年の1月と比較し、東部公民館では4単位、200人の増、西部公民館では22単位、197人の増、北部公民館では24単位、224人の減となりました。

続きまして、2月分です。5ページをお願いいたします。下から4行目、公民館ごとの合計欄を御覧ください。東部公民館においては175単位、1,256人、西部公民館においては117単位、1,305人、北部公民館においては179単位、1,365人の使用がありました。3館合計では471単位、3,926人の使用で、前年の2月と比較しますと、東部公民館では33単位、65人の増、西部公民館では29単位、429人の増、北部公民館では13単位の減、84人の増となりました。

最後に、3月分です。6ページをお願いいたします。下から4行目、公民館ごとの合計欄を御覧ください。東部公民館においては168単位、1,651人、西部公民館においては124単位、1,563人、北部公民館においては205単位、1,773人の使用がございました。3館合計で497単位、4,987人の使用でした。前年の3月と比較しますと、東部公民館では1単位、118人の増、西部公民館では4単位の減、44人の増、北部公民館では3単位の減、46人の増となりました。

なお、3公民館の全体的な主な要因といたしましては、コロナ禍前の通常の活動に徐々に戻りつつある時期と考えています。落ち着きを取り戻し、年を追うごとに利用人数が増加傾向となっていると考えております。

このうち西部公民館の2月分の使用人数が大幅に増加しておりますが、これは昨年度、工事のため使用できなかった学習室が使用できたことが主な要因となっております。

説明は以上となります。

○安部委員長　ありがとうございます。ただいまの説明につきましてありがとうございますでしょうか。――すみません、令和6年度分の調布市公民館使用状況報告をお聞きして、それからまとめて御質問等をいただきます。よろしくお願いします。

○丸山東部公民館長　次に、資料4、令和6年度調布市公民館使用状況報告（令和6年度分）について御報告いたします。

それでは、2ページになります。下から4行目の公民館ごとの合計欄を御覧ください。東部公民館においては1,957単位、1万6,668人、西部公民館においては1,504単位、1万8,365人、北部公民館においては2,366単位、1万8,269人の使用がありました。3館合計で5,827単位、5万3,302人の使用でした。前年度と比較いたしますと、東部公民館では34単位、107人の増、西部公民館では12単位、808人の増、北部公民館では69単位、24人の減となりました。

昨年度と比べ、単位数は減となっておりますが、参加人数は増となっております。その主な要因といたしましては、資料3で説明したことに加えて、例えば定員以上の申込みに対して、講師との協議、相談を経て、参加人数を増やすだけでなく、見学による参加方法を取り入れるなど、新たな取組が要因と考えています。

説明は以上となります。

○安部委員長　ありがとうございました。令和7年1月～3月分、併せて令和6年度1年間の使用状況報告につきまして何か御質問等ございませんでしょうか。稲留委員。

○稲留委員　ちょっと教えてほしいのですけれども、それぞれの公民館、施設の違いなどによって、トータルの人数はさることながら、利用団体が違う、増加したりなどいろいろあると思うのですが、特に目立つのが、北部公民館の子ども会等青少年団体というのはそれなりに数があって、東部、西部がほとんどないのですよね。これはなぜなのですか。

例えば、6年度の2枚目の使用状況の中で、種類別のところを見ますと、社会教育の中の子ども会をずっと見ていくと、東部とか西部はゼロですよ。北部だけ1,605人ということで、この年度は、1月、2月、3月も大体そんな感じなのです。2館ゼロで北部さんだけが千何百名利用されている。どれが多いかで、いい、悪いという話ではないのですけれども、なぜこうなっているのか、ちょっと知りたいと。

○安部委員長　丸山館長。

○丸山東部公民館長　お話しできるとすると、時期的なものもあったりとかするのかなと思います。例えば、社会教育の青少年団体と、こちらが該当するのかどうかあれなので

すけれども、夏の時期にお子様、赤ちゃんとかが使えるような保育室の開放だったりとか、そういうところは東部公民館は夏の時期にやったりとかしているところであります。

○稲留委員　では、年度で見ればそう変わらないということなのかな。

○安部委員長　ごめんなさい、今、社会教育の利用団体のくくりの中で、子ども会等青少年団体で、東部、西部はないけれども、北部公民館があるということをおっしゃっているのですよね。

○稲留委員　そうそう。なぜかなと。

○安部委員長　1年間の事業のあれなので。北部公民館で青少年関係の団体があるのに、ほかの公民館はないのはどうしてですかとお聞きしているのだと思います。では、福澤館長。

○福澤西部公民館長　西部地域の子ども会が減ってきてしまっていて、子ども会自体の活動がすごく少なくなっているという声をよく聞きます。その中で、社会教育のほうに登録している子ども会がないのか、少ないのか、そのような影響で東部も西部もゼロになっているのではないかと思います。

青少年団体のほうも登録や活動場所の関係、公民館を使っていないというところが主ではないか。例えば、たづくりや、西部だったら西部地域福祉センターを使っていたりとか、いろいろな施設がありますので、社会教育団体ですので、広域でいろいろなところで活動していると思われます。その関係で東部、西部はゼロになっているのだと思われます。

以上です。

○安部委員長　大丈夫ですか。

○稲留委員　東部、西部の話は分かったけれども。北部の館長、本当に来たばかりでなかなかあれだと思いますけれども、次回にでも教えてもらえればと思います。こちらだけあるのは不思議と。

○福澤西部公民館長　北部のほうは子ども会の活動が非常に活発なことは確かです。ですから、地域文化祭でも子ども会として出ております。地域によってその辺の差が出ているのかなと思います。

○安部委員長　青少対などの活動とかも公民館を利用して行われているのですよね。だから地域文化祭のときにもブースが出ていたりとか、いろいろな事業に参加されたり、展示もされたりとかして、地域の活動団体が北部公民館は割と活発なのかなと思われます。

○稲留委員　地域性があるということですね。

○安部委員長　　そうですね。

○稲留委員　　分かりました。ありがとうございました。

○安部委員長　　今おっしゃられたことは多分、今後の課題ですね。せっかく教育長も御挨拶に来られましたけれども、学校との連携というのもこれから大事なことですし、地域協議会とも今、東部公民館とか西部でもされていると思うのですが、そういうところと連携をしながら、やはり子ども会とかの団体との連携というのも、児童館だけではなくてされるといいのではないかと今、稲留委員の御指摘のところで感じました。よろしくお願いします。

ほかにございますでしょうか。栗原委員。

○栗原委員　　主催事業について教えていただきたいのです。2ページの団体種類別というところを書いてある数字なのですけれども、以前配付された前々年度の同じ使用状況と比較してみますと、例えば令和4年は1,014単位で1万1,041人、令和5年は1,069単位、1万2,547人、単位的にはそんなに変わらなくて18単位で、令和6年が20単位なのですが、推移的に見ると主催事業が年ごとに1,000人以上増加しているのです。これは顕著な傾向だと思うのです。だから、増加している原因は、公民館として主催事業に特に重点を置いて運営をしているのかなと。

あと、単位数はあまり増えていないのですけれども、人員的に増えているということは、需要と供給が合致しているということになると思うのです。何か新たな講座を企画する際に、ニーズをうまく生かしているのかなという感じがするのです。あと、特にニーズの高い、参加の多い主催事業の分野はどんなものがあるのかななどを教えていただきたいと思います。

○安部委員長　　丸山館長。

○丸山東部公民館長　　では、まず東部公民館のところでありますけれども、人気のコンテンツはやはりお料理だったりとか、あとは、お子様が興味が湧く恐竜だったりとか宇宙だったりとかそういうものです。それ以外にも高齢の方にとって、シルバー講座だったりとかスマホだったりとか、そういうところは人気ではあると思っています。

使用状況でありますけれども、令和元年度以降、コロナ禍のところがありまして、一旦は利用者が下がっています。ただ、コロナ禍後は、徐々にではありますけれども、数字は右肩上がりで以前に戻りつつあるというところは現状であると思います。コロナ禍はかなり影響があったところであるので、場合によっては講師の方がその間に御高齢になってし

まったりとか、体調を崩されてしまったりとかでやめざるを得ないという登録団体は、主催事業とは違いますが、そういうことも要因ではあるのかなと思っております。

○安部委員長 福澤館長。

○福澤西部公民館長 西部公民館は部屋の状況から、調理実習室がございますので、まず調理系です。今年度1年間の報告でもお話をさせていただきますが、例えばそば打ち体験を1回から2回に増やしたり等、料理系が1つ大きなものかなと思っています。あわせて、三季休業中の木工体験だとか科学教室だとか、そういう事業が人気があるかなと思っております。

あわせて、防音の部屋がございますので、音楽の関係、コンサートだとか音楽講座、そういうものが人気であります。ただ、部屋には定数がございますので、ある程度、定員は限られてきますが、人気の講座はそういう事業がございます。

西部公民館は、今年度について、昨年度の5%ぐらい、は808人伸びているのですが、昨年度、一昨年度から比べると増加率は鈍化しています。その大きな原因になるかどうか分からないのですが、まずコロナ禍から回復してきて、最後のほうに復活したのが音楽だとか体操だとか、声を出すものとか動くもの、そういう方たちが復活してきたということはあるのですが、逆に早くから復活してきた美術や手工芸等については、最初、復活すると、わっと来るのです。回数がすごくきちっとできるようになって、安定はしているのですが、人数も逆に安定してしまって、最初に来た方も少し落ち着いてきているというのが全体的にありますので、そういう形で5年度より6年度のほうが少し鈍化しているのかなと。

あわせて、西部公民館、5年度は40周年の記念事業がございましたので、その分が少し減っているというところも併せて、増加はしているのですが、鈍化しているのかなというような分析をしております。

以上です。

○安部委員長 ありがとうございます。小川館長。

○小川北部公民館長 北部公民館は、人気のあるものとしては、子どもの科学教室であったり、芸術鑑賞講座であったり、親子の工作教室も人気がありまして、こちらについては応募が多かったので、2回実施したりしている事業がございます。

やはり北部公民館も地下に防音の部屋がありますので、そちらでファミリーコンサートをやったりということもあります。0歳から一緒にファミリーコンサートに参加すること

ができるというところで、こちらも人気の事業になっています。

以上になります。

○安部委員長　　よろしいですか。

○栗原委員　　ありがとうございました。

○安部委員長　　ほかに御質問等ございませんでしょうか。

（「なし」の声あり）

事業報告のほうにも入ってきているようですので、使用状況報告については質疑を打ち切らせていただきます。

次に、事業報告（令和7年1月～3月分）について、丸山東部公民館長、説明をお願いいたします。

○丸山東部公民館長　　それでは、令和7年1月～3月分の事業報告をさせていただきます。資料5の1ページをお開きください。初めに、東部公民館です。

講演会Ⅱ「かわいいだけじゃない！都市に暮らすたくましいタヌキたちと自然環境」は、若葉町や入間町には入間樹林や生産緑地が多く残され、タヌキをはじめとする小動物の生息地となっていて、東部公民館周辺でも多く目撃されています。これらが都市化とともに減り続け、食べ物も住みかも求め、生息エリアを出るようになっていることを踏まえ、大学院内で観察、研究しているタヌキやアナグマなどの映像を交え、人間と動物が共に生きていくことはできないのか、自然と動物と人の暮らしについて考える講演を開催しました。また、スタジオジブリ創立時から中心的な役割を果たしている徳間書店が調布との関わりがあり、2月の調布シネマフェスティバルで「平成狸合戦ぽんぽこ」が上映されることもあり、連動することも視野に入れて開催しました。参加者も多く、興味深い内容の講演会でしたけれども、開始直後に講師が体調を崩したため、急遽中止としました。

なお、講師は現在、体調は回復し、5月の北部公民館の事業を実施することで調整していると聞いています。

家庭料理教室「冬野菜『れんこんとかぶ』の美味しいおかず」は、旬な冬野菜のレンコンとかぶをテーマに、様々な調理法で食感が味わえる6品のレシピを学ぶため開催しました。

参加者からは、「先生の御指導がとても参考になりました」「いつもレパートリー不足なので、早速作りたいと思います。ありがとうございました」といった講師及びレシピに対して満足感が高い感想がほとんどでした。

男性の料理教室、ぽちっと押すだけ！オープンで作るおもてなし料理は、オープンレンジを活用して、男1人で、身近な食材と下ごしらえをするだけで手が込んだメイン料理ができるオープン料理に挑戦しました。焼いている間にお酒のおつまみにもなる副菜やスープを作るため開催しました。

参加者からは、「メンバーからの質問が活発で刺激がある」「先生、スタッフの方が親しみやすくスムーズに教室を進めることができた」など、初心者と思われる満足する声がある一方、「調理数がやや少ない」といったベテランの感想もありました。

東部市民講座Ⅴ「愛と平和・祈りのうたごえ〜ポップス、ゴスペル、ときどき手話」は、誰もが願う愛と平和をテーマに、ポップスやゴスペルの中から、歌の背景やエピソードを聞き、その歌の意味を理解した上で、日本語、英語で、曲によっては手話なども交え、裏拍の取り方や雰囲気、コツを習得することを目的に開催しました。

なお、一部の参加者には6月に開催予定の50周年記念フェスティバルにも御出演いただく予定です。

参加者からは、「ゴスペルと手話両方に興味がありましたので、すぐに申し込みました」「たくさんの申込みがあったと聞いてびっくりしました」「明るい先生でとても楽しく参加させていただきました」「習った歌を家でも歌ってみたりして気分がとても上がりました」「以前、つつじヶ丘に住んでいて、東部公民館には30年前に幼児クラスでよく通っていて懐かしかったです」「6月の発表も楽しみです」「4月からの講座にもぜひ申し込みたいと思います」「先生、企画してくださった東部公民館の方々、ありがとうございました」「先生、もう少しゆっくりしゃべってくれたらうれしかったです」「全くと言ってよいほど知らなかった世界を知ることができたことです」。ゴスペルソングの起源の歴史、先生のお話など、歌、手話、歴史と様々な角度で評価が高い講座となりました。

東部市民講座Ⅵ「知っているようで知らない！恐竜・古生物のはなし」は、3館合同事業で実施した恐竜に関する事業は非常に人気が高く、締切り後の問合せも多くありました。参加できなかった方々のフォローや東部公民館の来館者増につながると考え、実施しました。内容は、恐竜をはじめとする古生物は、今では化石となってその繁栄の様子を伝えています。研究論文による新情報や面白い生態、性についても御紹介します。大人も子どもも楽しめる恐竜や古生物の新常識とともに、緩く楽しく学びました。本物の化石や今は亡くなられた恐竜専門のレプリカ彫刻者が制作した数百万円もする化石のレプリカの展示も実施しました。

参加者からは、「専門的な話をとても分かりやすく話してくださったので勉強になりました」「東部公民館は子どもや親同伴というプログラムが多かったが、今回は小さい子から老年まで様々でよかった」など、ほぼ100%の方が最高評価の「とても満足した」という項目を選択していました。

東部新春コンサート「薩摩琵琶～古の調べと語り」は、弦とばちによる独特な響きの琵琶の中でも薩摩琵琶を取り上げ、いにしへの調べとともに、令和のエッセンスも効かせた語りを楽しみました。厳かな雰囲気で行った新年のスタートとしました。

参加者からは、「美しい邦楽の音色と語りを堪能しました」「分かりやすく心に響き、心が浄化された思いです」「祇園精舎を体験でき、すばらしい思い出ができました」「有意義なコンサート、ありがとうございました」「東部公民館は子どもや親同伴というプログラムが多かったが、今回は小さい子から老年まで様々でよかった」「間近で演奏が聞けてうれしかったです」「美しい音色ですばらしいコンサートでした」「子どもにも体験させることができ感謝しています」など、いにしへの音色に聞きほれた感想が多かったです。

平和事業Ⅰ「シベリア残留日本人800人を救った僧侶 太田覚眠」は、日本は今年戦後80年となりますが、現在でも世界では戦争が起きています。明治から昭和にかけてロシアに居住し、ロシアと日本の交流におよそ30年もの間、尽力した日本人僧侶、太田覚眠について学びました。激動の時代に人との交流によって平和を体現しようとした彼の一生から、国境や人種を超えて人を思いやる心の大切さについて考えることを目的に、Z o o mとの併用で開催しました。

参加者からは、「シベリア残留日本人は、言葉は知っていましたが、このような人物のことは知りませんでした」「現在、あちこちで戦争が起きていることは残念です」「太田覚眠という人物は全く知らなかったのが、明治、大正、昭和と大変なことを成し遂げられたことにびっくりしました」など、当時を回顧し、現在の状況を憂う言葉もありました。

なお、八田副委員長から、「本事業のZ o o mとの併用は、公民館を知ってもらい、自宅でも事業に参加できる非常によい取組であるので、他の公民館でもぜひ取り入れていただくことを御検討いただければと思います」と事前に御意見をいただいております。

平和事業Ⅱ「宇宙視点で見る地球・人類・いのち・平和」は、日本は今年戦後80年となりますが、現在でも世界では戦争が起きています。科学の1つである天文学、天文学者の視点から平和をテーマに考えました。

参加者からは、「地球から太陽系、銀河系と宇宙への広がり意識すると、いかに人間

はちっぽけな存在であるか。宇宙の歴史を1年に置き換えると、人間の人生を90歳として僅か0.2秒という人間。前半にこの話を聞けたので、より後半の話が体感できました。もっと先生のお話を、せめて後半を30分か1時間延長してほしいくらいでした」「日本がより心配にもなってきました。しかし、知らぬが花では済まされないと思うので、知れただけよかったとも思います」「平和を考えさせられた。ふだんから宇宙を考えると、なぜ戦争するのかといつも思っています」「地球を大切にしたいです」など、平和の重要性を再認識した意見が多くありました。

次に、成人学級の活動報告です。「調布トマトの会～Enjoy! 生ゴミリサイクル～」です。「令和6年度オーガニックビレッジ全国集会」への参加、他団体との交流を重ねました。その後、年間学習の振り返り、次年度に向けて話し合いを行いました。

シルバー講座Ⅱ「看護師に聞く～知っておきたい医療系キーワード」は、最近耳にするアルファベット3文字、シニア世代にとっては人ごとではない医療に関するキーワードのようです。言葉の意味を知り、自分と家族のために今からできることを看護師から学びました。

参加者からは、「医療系キーワードのみならず、広く新しい知識を得るとともに、もしバナゲームとこれを通じた会話の機会をいただき楽しい講座でした」「家族とシェアしたいと考えています。ありがとうございました」など、とても満足したといった感想が多かったです。

シルバー教室Ⅲ「膝痛・腰痛予防の姿勢とストレッチ」は、痛くなるのを少しでも遅くするために、運動不足で低下しがちな筋力を今より落とさないコツを今からできる予防の姿勢と毎日できるストレッチを実践し、日々の生活の質、QOLを保つことを目的に開催しました。

参加者からは、「予防の重要性を感じる事ができた」「ストレッチすることで体が軽くなった」「分かりやすく、すぐに試みれば効果が出る感があった」など、体験して少ない時間で効果を感じる方が多かったです。

家庭教育講座Ⅱ「パパといっしょにリトミック～わくわく春ピクニック」は、女性の参加者が多いので、音楽を通した親子の触れ合いの機会を男性対象に実施することで、男性の育児参加を促進することを目的に、春のお出かけをテーマに開催しました。

参加者からは、「ふだん、あまり自分ではできない子どもとの触れ合いができた」「子どもと2人きりになれる時間も少ない中で、プログラムを組んでくれると、とても有意義

な時間になった」といった感想が多かったです。

国際理解講座、親子で世界を体験！～世界がもし100人の村だったら～は、世界には81億人もの人たちがいます。会場内を世界に見立て、言語や食料事情などを体感するワークを通じて、ゲーム感覚で自分と世界が置かれている状況を知り、多くの人の考えや事情の中で、自分が大切にしたいことを見つけたり、どうしたらみんなが幸せに暮らしていけるかといった思いやる視点を持ってもらうことを目的に開催しました。また、調布市の中学生平和派遣体験者のちょうふピース部に協力してもらい、彼らの活動の1つとして連携を図りました。

参加者からは、小学校1年生、「もっといい地球にしないといけないなと思いました」。保護者、「世界の広さ、様々な状況にあることを知る取っかかりになるよい講座になったと思う」「小学生の子どもに自分の暮らす世界が地球のほんの一部で、いろいろな境遇の子どもがいることを感じてもらえたらよいと思います」など、子どもも保護者も日本という恵まれた環境に住んでいることを認識する機会となった感想が多かったです。親子参加でしたので、家でも振り返ってもらえると思います。

企画展Ⅳ「開運 巳年の折り紙展」は、東部公民館開館50周年を迎えるみ年にちなみ、蛇の折り紙作品を展示し、今年1年の公民館の無事を祈り、新春の雰囲気来館者に味わっていただくために展示しました。

展示を御覧になった方からは、「白蛇様の展示がよかった」といった開運を感じた感想がありました。

地域連携展示Ⅰ、Ⅱ、調布六中「まなびの森プロジェクト」数学科作品展及び調布六中「まなびの森プロジェクト」英語・数学科作品展は、令和6年度から2年間の予定で、調布市立第六中学校のまなびの森プロジェクトで生まれた作品の展示です。このプロジェクトは、学校内に創造的な環境を整え、授業を変え、温かい学級や人間関係の構築に努めるなど、様々なアプローチで、生徒に仲間と協力して主体的に課題に立ち向かう力を育てたいという教育ビジョンを実現するものであり、市立中学校の展示の開拓と本プロジェクトの周知を図るため展示しました。

展示を御覧になった方からは、「それぞれが自分の興味関心から調べてまとめているところが興味深いものでした」「こういう活動を続けていくことで、自身も周りの人も生き生きと暮らしていけるのだらうと思いました」「まなびの森プロジェクト、2年間だけでなく、その後も続けていってほしいと思います」「公民館で六中の発表が見られること、

新鮮でした」「六中と公民館がつながったことがよかった」といった感想がありました。

地域連携展示Ⅲ、桐朋女子中・高等学校「美術部」展は、東京都美術館で開催された第69回全日本学生美術展に桐朋女子中・高等学校美術部の生徒さんが出展した作品全43点を展示しました。

展示を御覧になった方からは、「学生さんたちが心を込めて制作した作品を拝見し、若い世代の感性にも心を動かされました」「地域で展示発表する機会は地域の活性化にもなりますので、今後も継続できるとよいと思います」といった感想がありました。

東部懐かシネマ、16ミリフィルムでみる「また逢う日まで」は、映画上映もフィルムからデータ映像に変わる時代となり、16ミリフィルム、映写機による貴重な上映会を開催し、当時の俳優陣や時代を作品とともに振り返る機会を提供するとともに、映画のまち調布を広く市民に周知することを目的に開催しました。

参加者からは、「なかなか見る機会のない名画を映写機で鑑賞できるのはとても価値ある時間となりました」。戦争を体験したことのない世代の人も、「その時代、思い出して涙しました」といった感想がありました。

地域連携事業Ⅶ「「わたしとあなたと社会のウェルビーイング」桐朋女子主催講座のお誘い」は、桐朋女子中・高等学校の中学2年生が総合的な学習の時間で学んできた心も体も社会的に全てが満たされた状態、ウェルビーイング、校内で中学2年生の講座を実施するに当たり、参加のお誘いを受け、中学生と一緒に学ぶ機会を設けました。

参加者からは、「ふだん接することのない女子中学生と共に学べ、貴重な経験でしたが、少々騒がしく圧倒されてしまいました」「話合いのとき大人と子どもたちとのウェルビーイングやレジリエンスの違いを知れて大変勉強になりました」「今、子どもたちにメンタルヘルスの重要性を感じていましたので、共に学べてよかったです」といった感想がありました。

地域連携事業Ⅷ「防災講演会～最近の気候変化と身近な災害」は、若葉学校地区協議会と共催で開催し、最近の温暖化による集中豪雨、洪水や能登半島の地震、南海トラフ地震などの最新情報と地域の身近な災害について学ぶための講習を開催しました。

参加者からは、「自然現象を切り口にした防災の講演会はあまり見受けられず緊張でした。ありがとうございました」「当たり前のこと、分かり切っていることを再度考え直すことができた」といった感想がありました。

地域連携事業Ⅸ「桐朋生が教えるキッズ・ダンス・レッスン」は、桐朋女子中・高等学

校ダンス部の皆さんにダンスの基本、振りつけはダンス部オリジナルで、聞きなじみのある曲で踊る楽しさを体感してもらうとともに、地域の子どもとダンスを通して若年層との交流を図りました。

参加した児童は、「また桐朋の人たちが来て一緒に踊りたいです。すてきなダンスも踊ってくれてありがとうございました。これからも頑張ってください」。保護者は、「分かりやすくダンスを教えてくださいました」「お姉さんたちとお話をして楽しかったと喜んでいました」「このようなコミュニケーションが取れる場がないのでうれしいです」といった感想がありました。

東京都連携事業Ⅲ「シニアのためのスマートフォン相談会」は、スマートフォンをお使いでない方や、よく分からない方が、使いたくても使えない、通話なら何とか使っているけれども、それ以上は触っていないなど、60歳以上で操作に不慣れな方を対象に講習会を開催しました。不慣れな方ばかりでなく、スマートフォンを使いこなしている方がLINEやSNSなど次のステップの相談をするケースも多く、幅広い層の方に参加いただきました。東京都からは、アドバイザー4名の方に来ていただきました。

参加者からは、「分からなかった事柄をメモにしてきたのですが、全て解決。とても満足です」「怖がらず積極的にスマホを使っていきたいです。ありがとうございました」といった感想がありました。

共催事業Ⅱ「東部百人一首の会」公開講座、「平安に思いを馳せる～百人一首解説とカルタ取り」は、大河ドラマでも描かれた平安時代の時代背景にも触れつつ、この物語の中心的な人物や百人一首の読み手の中から数種を選んだ解説と、後半は、かるた取りで百人一首をさらに楽しみ、会員数の増につなげるためにも開催しました。

参加者からは、「講義も興味深く、かるた取りも慣れない中、楽しい雰囲気をつくってやっていただきました。ありがとうございました」といった感想がありました。

なお、今回は10代から80代と幅広い年代の方に御参加いただき、世代間交流もできたと考えています。

会議、公民館運営審議会第1回定例会を1月28日に開催しました。

最後に、広報、公民館専門教育通信、「東部公民館だより」1月号、2月号、3月号を各月6,650部発行しました。

東部公民館は以上であります。

○安部委員長 ありがとうございました。福澤館長。

○福澤西部公民館長　　続きまして、西部公民館です。資料5ページをお願いいたします。

初めに、青少年教育です。新春子ども体験教室として、「せいぶげんきアートDAY」を実施しました。後ほど御説明いたしますが、障害者によるアートの展示期間に合わせた音楽ライブとアートワークショップを実施し、障害者アートを多くの方に知っていただく機会とするため、実施いたしました。ライブでは、皆で歌えるよう、よく知られている曲を取り入れ、障害者支援施設で働く方の演奏をお話も伺いながら実施し、アートワークショップは、子どもから高齢者、障害のある方など、どなたでも参加していただける内容とし、多様な人と関われる機会といたしました。

参加者からは、「孫と一緒に楽しめました」や「誰でも参加できるところがよいと思いました」などの感想があり、今後もこういった年齢や性別、障害の有無に関係なく、一緒に参加し、学べる機会となる事業ができればと考えております。

次に、子ども料理教室として、「かわいいポップケーキをプレゼントにいかが？」を実施しました。小学生から高校生まで性別を問わず参加してもらい、バレンタインデーを前に、手作りプレゼントとして渡せるお菓子を作る機会として実施いたしました。

参加者からは、「楽しかったし、おいしかったです。家でも作りたいです」「バレンタインに友達にあげます」などの感想をいただきました。

次に、子ども科学教室として、「原子を知って電磁波であそぼう」を全4回で実施いたしました。講師は、仮説実験授業研究会会員の厚井眞哉さんです。仮説実験授業は、問いに対して仮説を立てて実験結果を自分で予想し、実験で答えを導くことで科学の面白さを体験しながら学ぶ毎回好評の講座です。今回は、電磁波に焦点を当てて、自由に体験する楽しさを知ってもらう機会となりました。

参加者からは、「分子の進むスピードに驚いた」「いろいろな実験と説明で楽しく学ぶことができました」などの感想をいただきました。

次に、子どもと大人の天文学教室として、「知って楽しむ宇宙の神秘」を全2回で実施いたしました。毎年、天体の魅力をテーマにしており、今回は最近の天文学現象をはじめ、星や宇宙の不思議について焦点を当てて実施しました。あわせて、初回は天気にも恵まれたこともあり、外に出て観望を行うこともできました。

参加者からは、「映像で立体的に宇宙を見られてとても面白かった」「星座の見方を詳しく説明してもらい、また、多元宇宙のお話には心がドキドキした」などの感想をいただきました。

次に、春休み青少年体験教室として、「ビートボックスにチャレンジ〜チャンピオン直伝！君の声に魔法をかけよう」を実施しました。新しい音楽表現であるヒューマンビートボックスのテクニックを披露し、参加者に体験してもらうことを目的に、小学生をはじめ、現在、来館者層として非常に少ない中・高校生の参加を期待して、春休み期間中に実施しました。講師は、ヒューマンビートボックスのインドチャンピオンであるアクシャイ・ディリップ・クマールさんです。

参加者からは、「いろいろな音が出せて楽しかった」「最初はできるか不安だったけれども、分かりやすく教えてくれてできるようになりました」などの感想をいただきました。

次は成人教育です。初めに、特別講演会として「宇宙天気予報〜極大期を迎えた太陽活動とその社会インフラへの影響に備えよう〜」を実施しました。2025年は大規模な太陽フレアが発生し、地球や人体に影響があると言われており、インターネットやテレビのニュースなどによる情報が氾濫している中、市民が正しく知って、正しく備える一助にするため、実施いたしました。講師は、国立研究開発法人情報通信研究機構宇宙環境研究室副室長・宇宙天気予報グループグループリーダーの久保勇樹さんです。講師からは、今回の太陽フレアが地球に影響を与える可能性は非常に低く、人体への影響もほとんどないという趣旨の説明があったこともあり、皆さん、安心した様子うかがえました。

参加者からは、「宇宙天気予報について知ることができてとてもよかった。どう受け止めて生活していくかを考えることができてよかった」などの感想をいただきました。

次に、体験教室Ⅲとして、電車っ子Party共同企画「盲導犬のお仕事を知ろう〜電車でお出かけするときは？」を子育て中の父親同士がつながることを目標に活動している地域の団体である電車っ子Partyとの共催事業として実施いたしました。講師は、盲導犬ユーザーの愛沢法子さんです。共催にすることで、公民館事業への新たな層の参加を期待するとともに、盲導犬に出会った際の注意事項や盲導犬との生活について、ユーザーから具体的な話を聞き、実際に盲導犬に出会ったときに生かせるよう実施しました。

参加者からは、「興味深いお話をユーモアたっぷりに聞くことができてよかったです」「実際に盲導犬と歩いて、働きぶりに触れられて、とても満足しました」などの感想をいただきました。

次に、6ページをお願いします。美術史講座です。西洋美術への誘い「西洋絵画，どこから見るか？〜ルネサンスから印象派まで」展を10倍愉しむためにを全2回で実施しました。国立西洋美術館で開催されるこの展覧会の内容を基に、西洋美術の歴史を学び、時代

ごとの作品の特徴や鑑賞のポイントを解説していただき、西洋美術をより深く楽しむための機会とするため、実施しました。

参加者からは、「ルネサンス、印象派の特徴や背景の解説がとても分かりやすかった」「産業革命によって絵画が民衆のものになったことなど興味深いお話でした」などの感想をいただきました。

次に、コミュニティカレッジです。「世界の中の日本～三人の専門家の視点から」をメインテーマに3回実施しました。講師は、東京外国語大学名誉教授の西谷修さん、同じく東京外国語大学大学院特任教授の吉崎知典さん、東京大学大学院教授の阿古智子さんです。長引く紛争や国際政治の変化の中で、日本は世界にどのように向き合っていけばよいか、専門家の話を聞き考える機会とすることを目的に実施しました。

参加者からは、「メディアが伝えない具体的な事象を学ぶことができました」「専門家の視点や歴史的解釈を聞くことができ、興味深かった」などの意見をいただきました。

次に、環境講座では、「プラスチックはごみではない！リサイクルの流れと未来への使い方に目を向けてみよう」を全2回で実施しました。身近にあるプラスチックが、どのようにリサイクルされているのかを知り、今後の分別に生かすきっかけとすること、また、プラスチックの再生の体験をしてもらい、未来に向けたプラスチックの使い方を考えることを目的に実施しました。

参加者からは、「不要なものはもらわないように心がけます」「環境に関することに気づきました。思っていたよりプラスチックのリサイクル率は高いことを知りました」などの感想をいただきました。

次に、音楽講座Ⅲとして「'70年～'80年代洋楽変遷史PART2」を実施しました。アメリカの音楽シーンが最も隆盛であったと言われる70から80年代の洋楽を取り上げ、当時、洋楽を聞いていた誰もが懐かしく振り返るとともに、ふだん公民館に来たことがない方々を新たに開拓することを目的に実施しました。

参加者34名のうち、アンケートを提出していただいた方の中とはなりますが、おおむね「満足」という感想をいただくことができ、新たな参加者は9名という結果になりました。

次に、西部サロンコンサートとして、「サロン気分で味わう 解説付きピアノコンサート」を実施しました。クラシックになじみのない方でも耳にしたことがありそうなショパンの曲を選定し、ピアノの生演奏にて、講師の解説とともに鑑賞し、クラシック音楽に親しむ機会として実施しました。

参加者からは、「楽しいお話とピアノの生演奏、最高でした」「作曲家の人生、時代背景などが目に浮かぶようにお話をいただき、非常に興味深かったです」などの感想をいただきました。

次に、7ページをお願いします。成人学級です。成人学級は、それぞれ自分たちで計画を立て、学習を行っております。

「ウエストガーデンきらら」は、花壇のメンテナンス、植付けなど、それぞれにテーマを定め、公民館の緑地を活用しながら緑化技術の習得を進めています。この期間、3回の活動を行い、花壇のメンテナンスと次年度の計画についての話し合いを中心に活動いたしました。

次に、「いのちの楽校」は、命を大切にするという大きなテーマを掲げ、幅広い学びを楽しく進めております。この期間に3回活動を行い、そのうち⑩では、公民館としてもサポートした「防犯対策と防災対策」について、調布警察署及び調布消防署の方からお話を聞き、敷地の駐車場では、起震車による地震体験なども行い、学級のメンバー以外にも地域の方々の参加も含め、実施することができました。

次は高齢者教育です。初めに、シニア健康講座として、「楽しく歌いながら体とところをほぐしてみませんか」を全2回で実施しました。高齢者を対象に、昔の歌を思い出すことで、一緒に歌い、手遊びをすることで脳の働きや体の動き、発声が促されるなど、健康の維持、心身の障害の機能回復、生活の質の向上、問題行動の改善などを目的として実施しました。

参加者からは、「脳トレしたり、皆さんと懐かしい歌を歌ったり、楽しい時間でした」「口腔体操は、とてもためになりました」などの感想をいただきました。

次に、シニア講座として、「新聞でおなじみの4コマ漫画を文章にしてみましょう」を全2回で実施しました。4コマ漫画を要約することで脳のトレーニングにつながることに同時に、グループ内で会話をすることを通じ、コミュニケーション能力向上を目的に実施しました。

参加者からは、「文章を書く上で、発想の転換をしていろいろ表現方法があることを知り、とても楽しい講座でした」「もっと書きたくなるほど充実した時間が過ごせました」などの感想をいただきました。

次に、展示会です。ロビー展として、この期間、4つ開催しました。まず、「墨絵で楽しむ十二支」として、登録団体である水彩画サークル「西雅会」の講師である川崎孝一さ

んの作品を展示しました。新年にふさわしい十二支の掛け軸12点を展示し、迫力ある墨絵の世界を感じてもらう機会として実施いたしました。

次に、「心の芸術 げんきアート展」として、市内の障害がある方たちのアート作品の展示を実施しました。障害がある方たちによるアート作品を広く知ってもらい、展示を通じて障害者への理解と共感を深めることを目的とするとともに、作者にとっての自己表現の場、充実感を得る機会になることを期待し、多様性社会への一助となるために実施しました。あわせて、この展示に関連し、冒頭で報告いたしました「せいぶげんきアートDAY」を開催し、展示を見てもらう、興味を持ってもらえるよう行っております。

次に、「絵手紙サークル「彩の会」作品展」、西部公民館利用団体である「彩の会」の展示を実施しました。絵手紙サークル「彩の会」の会員の方が、今までに作成された身の回りの花や野菜などをモチーフとして丁寧に描かれた作品64点の展示をし、作品発表の場とするとともに、活動内容の紹介の場となるよう実施いたしました。

次に、鹿島学園高等学校調布キャンパス イラストゼミ作品展を実施しました。本展示は、鹿島学園高校より、イラストゼミ生徒の学習成果の発表を展示したいとの申出があり、2年前から引き続き実施しております。今年度は約10点の作品の展示となりました。若い世代の作品を間近に見る機会として貴重な展示であることから今後も継続していきたいと考えております。

次に、8ページをお願いします。連携事業です。東京都共催事業として、シニア向けスマートフォン体験会、相談会を8月に引き続き実施いたしました。体験会は午前と午後に分かれ、文字の入力やインターネットの接続方法などを体験しました。また、相談会では30分の制限で相談者一人一人の疑問や質問にできる限り答える内容で実施いたしました。限られた時間ではありますが、参加者の疑問はおおむね解消できた様子であり、満足度も高いと考えております。

次に、会議です。西部公民館利用団体連絡会の館外研修会が実施されました。JICA横浜などの見学を13団体の参加で実施いたしました。

最後に、広報です。「西部公民館だより」1月号から3月号まで、各6,200部発行いたしました。

西部公民館からは以上です。

○安部委員長 ありがとうございます。小川館長。

○小川北部公民館長 続きまして、北部公民館です。令和7年1月から3月に実施した

事業を御説明いたします。

初めに、青少年教育です。資料5の9ページの最上段をお願いします。

青少年体験教室Ⅳとして、「楽しい紙工作教室～おうちにあるもので作るふしぎなおもちゃとペンケース～」を実施し、歩く動物、ブーメランという2種類のおもちゃとペンケースを作成しました。小学1年生から4年生の15人が参加し、半数の親御さんが見学しました。出来上がったもので子どもたちは夢中になって遊び、楽しみ、おうちにあるもので作るという手軽さもあり、兄弟の分も家で作ってみるという子どももいました。

続いて、青少年体験教室Ⅴとして、「むかしあそび広場～お手玉・ゴムだん・おはじき・カルタ」を1月25日に実施しました。年中～小学6年生の12人、保護者5人が参加しました。複数の遊びを用意し、小学6年生が実践するのを低学年の子どもたちが見守り、私もやりたいと観察して挑戦するという一連の学びの工程を体験し、世代を超えて交流することができました。

1ページおめくりいただきまして10ページ、成人教育です。まず、文化講演会「私たちの地球を守ろう！教えて！南先生 今地球の自然環境はどうなってるの？」を実施しました。小学生は5年生が1人、親子で参加、30代から80代の方が20人参加しました。人が自然に与える影響と生物多様性の危機的状況、知られざる海、氷山、北極の今など、環境変動がもたらす地球全体への影響等についての講演で、生態系のバランス、共存することの難しさ等を考え、学ぶ講演でした。

続いて、その下の歴史講座Ⅰとして、「地元遺跡発見！縄文時代から中世の調布～北部公民館周辺を中心に」を郷土博物館職員の学芸員を講師として実施いたしました。40代から80代まで幅広い年齢層の方々が40人参加しました。調布市内の地理と市内遺跡を紹介し、北部公民館敷地内には中世の堀の跡があったことなど、身近に感じる内容であり、「遺跡がこんなにあることを知らなかった」「非常に興味が湧いた」という感想をいただきました。

次に、歴史講座Ⅱとして、「『坂の上の雲』の時代～日露戦争は世界に何を残したか」を実施しました。全3回の講座で、『坂の上の雲』の舞台となった日清、日露戦争が世界に与えた影響とは何か、世界から見た日本の近代史を解説し、昨今の戦争との共通点など、歴史を身近に感じられるような内容で、NHKで放送されていた『坂の上の雲』を視聴されている参加者は、イメージしながら学びを楽しんでいました。

続いて、中段の市民の暮らし講座Ⅳの「地球沸騰で大丈夫か？日本の山風景スライドト

ーク秋冬編」です。参加者は17人で、日本の自然風景、森、岩、動物、気象の美しさは、全て水が関わっていることを学び、異常気象による山での事故防止のために大切なのは情報収集であること、登山での便利なアプリ、登山道具などの紹介、安全にレジャーを楽しむための豆知識も併せて学びました。

続いて、その下の市民の暮らし講座Ⅴの「事件を知る・特殊詐欺と闇バイト問題～凶悪化するトクリュウの実相」では、闇バイト、トクリュウ、特殊詐欺事案についての現状や変化する手口について、闇バイトの背景と構造についての解説があり、被害者の9割は60歳以上、加害者の多くは10代後半から20代であること、また、現金を持っている高齢者から貧困層が奪い取る構図となっていること等から、とにかく被害に遭わないようにする防犯意識が大切であり、その地域の警察の電話番号を電話機のそばに貼っておくことなどの注意点の説明がありました。

続きまして、文化教室Ⅳとして、「棒針で編むあみぐるみ講座～端午の節句に、カワイイ鯉のぼりを編んでみませんか？～」を実施しました。全2回の講座で3つのこいのぼりを各自のペースで編み進め、講師への質問、編み方の細かい説明、参加者同士での教え合い等、コミュニケーションを取りながら楽しく学びました。

続きまして、その下の成人学級です。初めに、「サステナブルを学ぶ会」です。1月9日から3月18日までで、2回の講座、2回の相互学習を実施しました。食品ロス削減推進法について学習し、スーパーなど店舗に設置にされているお客様意見、要望書に、食品ロスについての店舗の考え方を知らするための投稿をし、その結果を聞くなど、学びを深めました。

次に、「Multicultural Study Group」です。NHKで放送中のドラマ「東京サラダボウル」について、感想や外国人居住者の現状などが活発に話し合われ、また、次年度の学習計画の検討も行いました。

続きまして、11ページをお願いします。高齢者教育です。いきいき講座Ⅲ「シニア向け ゆっくり歴史散歩～古代の武蔵国の中心を歩く」です。全2回の講座を実施し、府中市内にある奈良時代から平安時代の歴史、府中の地名や地形などについて講義を受け、実際に武蔵国府跡や大國魂神社、国司館、府中御殿など現地を見学し、地理的特徴も含めて参加者同士が交流しながら学ぶことができました。

次に、その下の家庭教育事業です。2月2日にファミリーコンサート「0歳からパパママいっしょに音あそび～マリンバ・ピアノ・読み聞かせ～」を実施しました。7組25人の

参加がありました。子ども向けに楽器体験、手遊び、マリンバBGMつき読み聞かせを行いました。騒いでも気兼ねせず、不安もなく、ストレスなしで演奏を子どもと楽しむことができましたなどの感想をいただき、赤ちゃんから大人まで、楽器の生の音に触れながら楽しみました。

その下の家庭教育講座Ⅱ、地域連携事業Ⅵ、「起立性調節障害の診断と理解～家庭・学校での対応についてと、今地域でできること」を実施しました。これは神代中学校の学区域を中心に活動している起立性調節障害の親の会でのひらドロップスとの共同企画で実施した講座です。起立性調節障害とは何か、その関わり方などを小児科専門医が解説しました。

続きまして、国際理解教育です。国際理解講座Ⅱの「パレスチナの今とこれから～大きな見取り図で考える今後の中東と世界～」を実施しました。中東の現在の状況がどのような歴史的背景から至っていったのかを解説し、国連を機能させることが重要であり、それがないければ世界はカオス状態になってしまうことが講師から語られました。2時間を超える講演となりましたが、参加者は最後まで講師の話に耳を傾け、活発に質問をしていました。

続きまして、その下の国際理解講座Ⅲでは時局講演会として、「新時代の中国と日本、そして世界～習近平体制、石破政権、トランプ2.0～」を実施しました。中国が習近平体制になってからどのように変わったのか再確認し、現在の日本との関係と課題、トランプ体制になってからの米中の今後を解説しました。日本は、中国との複数の外交ルートを構築し、互惠関係を築いていくことが肝要であると講師から語られました。

続きまして、展示会です。「小学生書初め展」では、健全育成推進上ノ原地区委員会主催による書き初め大会に参加した児童の書道作品63点を展示しました。

その下の「東京大空襲紙芝居展」では、北部公民館のサークルが製作した東京大空襲をテーマにした作品を20点展示し、令和6年夏に実施した北部公民館の登録団体による紙芝居と詩の朗読の発表を上映しました。

その下の展示は、「神代中学校PTA書道サークル作品展」です。書道作品30点を展示いたしました。

続きまして、12ページをお願いいたします。連携事業になります。地域連携事業Ⅸ、北の杜講座Ⅱでは、調布消防署深大寺出張所、調布市消防団第10分団、市総合防災安全課と連携し、上ノ原まちづくりの会との共同企画による体験型の防災イベント「みんな集ま

れ！北の杜防災フェア2025」を実施しました。消火器で消火体験、暗闇体験、段ボールベッド体験、非常用トイレの使い方、凝固剤実験展示、在宅避難用の備蓄品などの紹介も行いました。

その下の地域連携事業Xは、「北の杜地域交流会議第4回目」です。令和6年度の文化祭の振り返りと令和7年度の文化祭について、また、今後の活動予定など、各団体からの情報を共有しました。

続きまして、会議です。北部公民館利用団体連絡会役員会を2月8日、3月22日に開催し、北部地域文化祭実行委員会運営規約改訂について、令和7年度の総会の準備や北利連会報の内容確認などを行いました。

次の北部公民館利用団体陶芸サークル連絡会では、令和7年度陶芸窯の使用予定について協議いたしました。

最後の広報につきましては、「北の杜通信」1月号から3月号までを各月5,600部発行しました。

北部公民館からの説明は以上となります。

○安部委員長 ありがとうございました。それでは、ただいまの報告につきまして御質問等ございませんでしょうか。大槻委員。

○大槻副委員長 東部さんだけではないと思いますけれども、東部さんのほうで今回展示会という形、地域連携ですね。こちらで調布の第六中学校を使って「まなびの森プロジェクト」というのでつながりましたね。このようなつながりは、公民館の在り方、そして価値観というようなこと、お互いにつながっていくということで、どんどん継続したほうがいいと思います。

以上です。

○安部委員長 ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。稲留委員。

○稲留委員 中身についての質問なのです。西部さんの特別講演会で、宇宙天気予報をやって、極大期を迎えた太陽活動というのがあって、それでも人体とかにはそう影響はないというお話だったのですけれども、極大期を迎えたというと、例えば電波障害とかそういうものがあるような気がするのですが、どんなことに影響があるのでしょうか。そんな話はありましたか。その辺を。

○安部委員長 福澤館長。

○福澤西部公民館長 内容のことになりますけれども、太陽フレアというのは、御承知

のとおり太陽の爆発によって、紫外線や電磁波等人体に影響があると考えられる物質が大量に放出されて、地球に向かってくるということ。それら太陽フレアが地球に向かってきたときに危ないというところがあるのですけれども、その中で地球は大気等により、それを防御するということで、それを抜けてくるほどの量の紫外線や有害な電波というか、そういうものが来るということなのです。

今回の極大期を迎えて地球に影響というのは、それほど現実にはないと判断できるのですが、太陽フレア自体は、例えば人工衛星だとかに影響を与えたりするものということで捉えていただいていいと思います。宇宙天気予報というのは、そういうものを予報する。晴れとか曇りを予報するわけではないので、極大になって電波がどれくらい出て、どういう波形のものがどれだけ出ているかというのを予想していくのが宇宙天気予報ということなので、今回は思った以上に言うては悪いのかもしれないのですけれども、人体に影響するほどのものではないと判断したということです。

○稲留委員 温暖化とは関係ないのですか。

○福澤西部公民館長 講師の話では温暖化の話は出ておりませんでしたので、問題はないと思います。

○稲留委員 ありがとうございます。

○安部委員長 ほかにございませんでしょうか。八田副委員長。

○八田副委員長 東部公民館から報告いただいた1ページ目の最下段、平和事業Ⅰの内容で、講演の内容もすばらしく、興味があるところですが、この定員の内訳の中にZ o o mで12人という内容が見てとれました。当該内容は、公民館に直接お越しにならなくても講演に参加できるというZ o o mでのリモート参加がなされているようですので、とてもいいのではないかなと思います。実施をした中の感想的な内容があればお伝えいただきたいのと、併せてZ o o mを使う事業は、ほかの西部さんだとか北部さんなど、令和7年度に向けてどんな展開の予定などあるのかなというのも補足いただければありがたいと思います。

○安部委員長 丸山館長。

○丸山東部公民館長 先ほど説明をさせていただいたところではあります。Z o o mで参加されたかどうかは、ここの時点ではちょっと分からないのですけれども、世界で戦争が起きているということは残念ですということと、覚眠という人間を知らなかったのも、明治、大正、昭和と大変なことを成し遂げられたということで、当時を回顧する状況と現

在の状況を憂う言葉もあったということ、アンケートで回答いただいております。

以前もZ o o mの関係については、一步を踏み出せない方たちとZ o o mを併用し開催したこともあり、事業、イベント等で可能な限りZ o o mを活用して、公民館をまず知ってもらおうということと、あと自宅でも参加できるものは今後もいろいろな形で検討していければと思っています。

○安部委員長 福澤館長。

○福澤西部公民館長 西部公民館、年間報告にも記載しておりますが、今年で3年目だと思います。オンラインという書き方をしていますけれども、Z o o mを利用して事業をやっております。なぜこの講座を選んだかという、スタッフや先生に知識と経験がないと、なかなかうまく実施できない。今回の明治大学の山田先生がその辺が非常に強く、できる方だったので、この事業を選んで数年前から実施しております。

今回の実施についても、Z o o m自体はうまく出来たのですが、対象となる方が、Z o o mに慣れていない方がおり、当日、職員が電話で一生懸命教えながら悪戦苦闘する方もおり、現実には講座の途中からしか聞けなかった方も出てきてしまいました。分からない方は事前に連絡をくださいと伝えてはいるのですが、現実には難しかったことがありました。なので、今後Z o o mというか、オンラインでやっていく中では、使われる方の状況がどうなのかというのをどう把握するかというのが問題になっているところです。

以上です。

○安部委員長 小川館長。

○小川北部公民館長 北部公民館は、私が着任してから知る限りでは、Z o o mは行っていないかなと思っています。

今年度の予定についても、まだ全部が出そろってはおりませんので、Z o o mができるものはないかというところで、専門員や職員と話しながら、前向きに検討してまいりたいと思います。

以上です。

○八田副委員長 内容は分かりました。Z o o mは会議体だとかでリモートで参画をしたり、講演に入ったりということの利便性はあると思うのです。ただ、操作できて何ぼのところもあるので、なかなか双方向という形が、年齢的な内容もあつたりもするかもしれませんが、一方で、リアルタイムで見られなくても、例えば動画なりYouTubeなりという内容で、後でその講座に学習の機会として参加という形も考えられるところだと思います

ので、少ない人数でやり切れないところもあるかもしれませんが、多くの方々に公民館事業を知ってもらえるような参画の機会を持てるような形をぜひコーディネートいただければと思います。頑張ってください。

以上です。

○安部委員長 ありがとうございます。では、稲留委員。

○稲留委員 お時間もあれなのですけれども、東部さんの今の歴史講座の中で、太田さんというお坊さんの話を話されたということですが、日露戦争のときのシベリア残留というのはいまいよく分からなくて、例えば前の大戦ですとシベリアに大勢連れていかれたら何かあったのですけれども、日露戦争のときは、せいぜい行っても奉天のちょっと北ぐらいまでなので、シベリアにも行っていたのがいたのですか。それをちょっと知りたいと思って。

○丸山東部公民館長 先ほど御説明した内容以外のところで私は知り得ていないというか、今、手元に資料がないもので、すみませんが。

○稲留委員 では、また後ほどで結構です。

○安部委員長 ほかにございませんか。清水委員。

○清水委員 八田委員の質問の中で、Z o o mのお話を伺っていたのですけれども、高齢者のスマートフォン教室が大変人気というところで、Z o o mの操作の方法などを教室の中でやって、公民館の事業に参加をしていただくというつながりが持てるのではないかと思います。その辺りをお聞かせいただきたいのと、高齢者のスマートフォン教室は東京都から補助金をいただいていると伺ってしまして、これがいつ打ち切られるか分からないという御答弁が過去にありましたけれども、今年度に関して、将来的にこういった状況になるのかというところをお聞かせいただきたいと思います。

○安部委員長 丸山館長。

○丸山東部公民館長 東京都との共催事業については、ある程度パッケージのところがあるので、その部分で、SNSに入って、いわゆる電子マネーを使った決済だったりとか、そういうものが主軸になっていたと認識をしています。Z o o mまでという項目は、私はちょっと記憶はないところです。

あとは、補助金の関係ですけれども、今年度はなくなったということで、東京都の共催事業の部分については継続している部分はありますが、なかなかその部分は今年度独自でというのは厳しいような状況になったと聞いております。

○清水委員　予算的にも厳しくなってしまう可能性はあるのだけれども、高齢者のスマートフォン教室、60歳以上ということでお伺いしているのですが、この10年間でスマートフォンが普及してきたと考えると、50代の方が60代になって、60代の方はこの10年間でスマートフォンを相当使った世代なのではないかと思って、実際に必要なのは70歳以上の方かなと思いながら、70歳以上でもかなり詳しい方もいらっしゃいますから、そういったデジタルディバイドと言われる方々がZoomとなると、やはり厳しいと思う。ですので、やはりスマートフォン教室などを活用されて、こういった取組も公民館でやっていますので、試しにつないでみてくださいという御案内もできるかと思いますので、併せてお願いしたいと思っています。

それから、平和事業についてなのですが、東部公民館さんのほうで、ちょうふピース部が参加したということで、ちょうふピース部は、中学生の被爆地体験ということで、市の事業として被爆地に派遣されております。そういう子たちが、その後に活動するために、いろいろ自主的に活動を深めたいということで、ちょうふピース部をつくりました。ですので、彼らが活躍できるような取組を東部さんだけでなく、西部さんも北部さんもやっていただけると平和の取組が拡充されるかと思いますので、この3人のちょうふピース部が今回どのように協力されたかというのはちょっと分からないのですが、特に親子と一緒に多世代で交流ができて、近い年のお兄さん、お姉さんのお話が聞けるとなると、やはり子どもも興味が向きますので、こういった取組の拡充をお願いしたいと意見させていただきます。

それから、先ほども公民館の子ども団体がゼロだというお話を伺ったのですが、公民館に登録している団体とそうではない団体があって、でも新しいファンを増やさなければいけないと私はこれまでの審議会の中で言わせていただいたのですが、そういった中での取組の充実が本当に図られてきていると評価をしたいと思います。例えば防災のことであつたり、平和の事業であつたり、特に西部さんの電車っ子Party、子育て団体が障害者団体との交流といった部分、こういった市民の力を借りて新しいファンをつくるということは非常に重要だと思いますので、これからも続けていっていただきたいと思います。

また、未就学児を持つ御家庭を対象とした事業を今後増やしていただきたいと思うのですが、今回の1月から3月分を拝見いたしますと、保育がついている講座がほとんどなくて、あってもゼロだったと。保育というニーズが今必要とされているのかということに立ち返って考えてみると、勉強したい人というのは、インターネットの中で自主的

にやっていくこともできる。だけれども、保育を必要としている人もいるかもしれない。その辺りが分かりかねるところですけれども、昨今のトレンドとしては、子どもと一緒に学ぶというほうが、割合としては大きくなっているのではないかと私は思います。ですので、そういった部分をどのように配分していくかというところを公民館はどのようにお考えなのかというのをお聞きしたいと思います。

○安部委員長　丸山館長。

○丸山東部公民館長　今お話をいただいた未就学児と家庭の内容であります。保護者と一緒に参加というところについて、例えば東部公民館でいえば「パパといっしょにリトミック」という父親と子どもというような接点だったりとか、あとは保育付きのところでは、お母様等々に学んでもらうといういろいろなパターンを考えています。

その中で、保育付きでやったとしても、実際に保育付きを選ばれなく人数が埋まってしまいう場合もあったり、それはその事業、コンテンツ、応募をかけて蓋を開けてみないとその反応は見えないところがあったり、的確な予想は難しいところであるのですけれども、公民館には専門員がいますので、そこら辺は臨機応変に事業展開していきたいと思います。

○清水委員　なかなか難しいかもしれないのですけれども、保育をやるにも予算がかかるし、かといって未就学児を対象にした事業をやると、抽せんになってしまって漏れてしまうような人もいたりとかして、もうちょっといろいろ調査して、検討して、研究していただいて、未就学児を持つ御家庭に対する事業を拡充していただきたいなと要望して終わります。

以上です。

○安部委員長　ありがとうございました。ほかにございませんでしょうか。稲留委員。

○稲留委員　冒頭質問した子ども会で、北部さんがあって、東部、西部はゼロと。今お話を聞いて分かったのですけれども、要するに子ども会という正式な組織が来たら子ども会のほうに分類されて、子どもだけ来て、みんなでわっと集まったのはそっちに分類されないということですね。よく分かりました。そういうことですね。

○安部委員長　ほかにございませんか。それでは、一旦、1月から3月分の事業報告は終わりました、令和6年度の年間の事業報告についてお願いいたします。

○丸山東部公民館長　令和6年度調布市公民館事業報告について御説明いたします。資料6、1ページをお願いいたします。

東部、西部、北部公民館事業の総括です。令和6年度は、調布市公民館事業計画に基づ

き、青少年教育、成人教育、高齢者教育、家庭教育、国際理解教育の5つの学習分野を主軸に、市民の学習ニーズに応える事業、地域団体との連携事業、地域の魅力をテーマとした事業などのほか、展示会、地域文化祭、公民館登録団体との共催事業などを実施しました。また、各種会議を開催し、公民館広報誌を毎月発行しております。

なお、令和6年度は、東部公民館では館内全室の空調改修工事等を行うとともに、令和7年度に開館50周年を迎えるに当たり、諸室の改修を実施し、利用者の便に帰するよう努めました。

次に、2ページをお願いします。令和6年度における東部公民館の事業報告です。

初めに、青少年教育です。前年度に引き続き、「思考力を高める！子どもの囲碁教室」、現在でも階段に貼ってある「大好きなモチーフをならべて描く階段アート」、新たに「親子でフルーツケーキのキャンドルづくり」などの東部ジュニア教室を開催しました。

次の成人教育は、3ページから6ページまでに及びますが、講演会、体験教室、地域に関する各講座や芸術鑑賞講座や歴史講座などを実施しました。

次に、7ページの高齢者教育です。当館の障子を教材にした「障子の張り替え～あなたにもできる実践DIY」のシルバー教室や「はじめてのオカリナ」などのシルバー講座を開催しました。

次に、8ページの家庭教育は、「家庭や学校で始める、中高生のための性教育」などの講座を開催するとともに、夏休みイベントを実施しました。

次に、下段の国際理解教育では、参加者が世界を疑似体験できる、親子で世界を体験！～世界がもし100人の村だったら～を開催しました。

次に、9ページの展示会は、東部公民館において登録している団体などのサークル展、企画展のほか、例年の桐朋女子中・高等学校の活動発表に加え、新たに調布市立第六中学校の「まなびの森プロジェクト」を地域連携展示として開催しました。

次に、10ページの映画会では16ミリフィルムでの鑑賞、諸室開放ではWi-Fi使用可能な部屋を自習室として開放しました。

次の市民文化祭では、12ページまでにわたりますが、利用団体の学習成果の発表と地域交流を目的に東部地域文化祭を開催いたしました。

次に、11ページから15ページの連携事業では、隣接する東部児童館、桐朋学園女子中・高等学校に加え、市内における姉妹都市である木島平のアンテナショップ新鮮屋、知的障害者援護施設すまいるの野菜やパンの出張販売を実施するなど、多くの事業を開催しまし

た。

最後の団体支援では、登録団体による公開講座を共催で開催しました。

東部公民館は以上です。

○安部委員長 福澤館長。

○福澤西部公民館長 続きまして、西部公民館です。

西部公民館においても、青少年教育、成人教育、高齢者教育、家庭教育、国際理解教育の5つの学習を中心に、地域文化祭をはじめ、多種多様な講座などを実施することができました。西部公民館、18ページをお願いします。

青少年教育では、子どもにとって興味のあることを、交流を図りながら学習する講座として、子ども料理教室Ⅰ「夏休み！親子そば打ち体験」や下から2番目の子ども科学教室「原子を知って電磁波であそぼう」などを実施しました。

次の19ページの成人教育では、現代社会や地域の課題に関連する講座として、1つ目の特別講演会「宇宙天気予報」では、太陽フレアを中心とした宇宙に関する講座を、次の20ページでは、5つ目の「春のロビーコンサート」など、広いロビーがある西部公民館の施設の特徴を生かした事業の実施を、21ページでは、下から3つ記載がされておりますが、参加者が参加、体験できる事業を、22ページから23ページは、成人学級の実施内容を、最下段には平和フェスティバルと様々な分野の講座を実施いたしました。

次の24ページの高齢者教育では、シニアを対象に、高齢になっても地域の中で健康で生き生きと暮らすための講座として、シニア健康講座などを実施しました。

次の家庭教育では、2つ目の子育てセミナーとして、「仲間と出会い、子どもと自分を育てよう」をテーマに、子育ての不安や悩みの軽減、地域での仲間づくりの一助となるような講座を全6回で実施いたしました。

次の25ページの国際理解教育では、「ロシアによるウクライナ侵攻」など、その時期を捉えた講座を実施し、その下の展示会では、登録団体等のサークル展や近隣障害者施設の展示などを行いました。

次に、26ページの市民文化祭では、展示やくつろぎコンサートを中心とした西部地域文化祭を今後長く続けていけるよう、持続可能な文化祭を念頭に実施しました。

次に、27ページの連携事業では、東京都と共催してのスマートフォンの体験会、相談会を実施し、28ページでは、団体支援としてサークル体験教室などを、29ページの会議では、利用者懇談会、西部公民館利用団体連絡会等を実施しました。

最後に、30ページの広報ですが、「公民館だより」を毎月発行いたしました。

西部公民館からは以上です。

○安部委員長 ありがとうございます。小川館長。

○小川北部公民館長 続きまして、北部公民館です。31ページをお願いいたします。

まず、青少年教育では、ガラスのおうちの小物入れや冬のオーナメントを親子で体験する親子工作教室、中段にあります自分の好きな動物を作る子ども陶芸教室、次のページ、32ページの最下段の子ども科学教室では、自分で天体望遠鏡を作成し、宇宙についての話を聞き、その後、立地を生かしまして、実際に上ノ原公園にて月や星の観察を親子で行っていただき、いろいろなことを学びました。

続いて、33ページをお願いいたします。成人教育です。中段の芸術鑑賞講座の「国宝『源氏物語絵巻』を読み解く」では、絵巻を鑑賞する基本を解説し、絵図を一つ一つ読み解いていきました。

また、1枚おめくりいただきまして、34ページの中段にあります文化教室の「紙芝居で笑顔を届けよう！～作って演じる自分だけの物語～」は、全4回の講座で、テーマ決めから紙芝居の作り方、演技方について学び、実際に自分らしさを紙芝居で表現する発表も行いました。

続いて、ページが飛びまして37ページをお願いします。先ほどの1月から3月のものと少しかぶりますが、家庭教育です。中段にありますファミリーコンサート「0歳からパパママいっしょに音あそび～マリンバ・ピアノ・読み聞かせ～」を実施しました。11組28人の参加がありました。子ども向けに楽器体験、手遊び、マリンバのBGMつき読み聞かせを行いました。赤ちゃんから大人まで、楽器の生の音に触れながら楽しみました。

続いて、またページが飛びまして41ページをお願いいたします。市民文化祭の北部地域文化祭です。資料に記載はありませんが、10月27日に小学6年生までの児童を対象にしたポニーの乗馬体験を行っております。また、6つのお楽しみブースを設置してスタンプラリーを行い、スタンプラリーだけでも716人が参加しました。

続きまして、1枚おめくりいただきまして、43ページをお願いします。連携事業の最下段の地域連携事業では、調布消防署、調布市消防団、総合防災安全課と連携し、上ノ原まちづくりの会との共同企画による体験型の防災イベント「みんな集まれ！北の杜防災フェア2025」を実施しました。

北部公民館の令和6年度の事業報告の説明は以上です。

○安部委員長　　ありがとうございました。それでは、御質問等ありましたらお願いします。八田委員。

○八田副委員長　　1つ提案と確認です。1ページに全体の総括があるので、1の青少年教育から5の国際理解教育まで、こういった事業をやりましたというのが見てとれますよね。個別、今、3人の館長が御説明をいただいた資料側になりますけれども、例えば2ページでいうと青少年教育という欄は網かけで空欄なのですが、ここに全体の集計、要はこの事業には何人参加したという集計を出しておく、より分かりやすいのではないかと思います。できれば、前年比較か何かがあると、よりいいのかもしれませんが、少なくとも個別の事業に何人ということと、全体の 카테고리の中では総計何人参加したというのを表にすると、次年度以降いいのではないかと思いますので、それが1点提案です。

16ページの最下段、私たち公運審の委員で研修会に参加させていただきました。この中で、公民館元気プロジェクトというのを明治安田生命の方にレクをいただきました。その後、何か明治安田生命さんから情報提供があったり、逆に令和7年度に向けて連携の余地が見えてきましたとか、何か動きがあれば教えていただきたいと思います。後段は確認です。

○丸山東部公民館長　　日程2のその他の(1)のほうで御報告させていただければと思っていましたけれども、今この場でお話をさせていただいてもよろしいでしょうか。

○八田副委員長　　もし触れていただければ。

○丸山東部公民館長　　今、八田副委員長からお話があった件です。研修会において副委員長から、他自治体の公民館で実施した際、参加者のアンケート等を実施した結果、例えば都心や地方での反応や認識の違いなど、分析した内容及びそれに基づいた講座があればお答えいただきたいという御質問があったところです。

その場での回答は、確認後という形になっておりましたので、その後、確認をしましたところ、明治安田生命保険相互会社の統轄をしている地域リレーション推進部では、そのようなことは現状では蓄積や分析はしておらず、自分たちが行う社会貢献事業、CSRの中のパッケージの項目を各公民館さんが選んでくださいというところで、今の時勢を独自でお考えになられている可能性があると感じたところです。

加えて、参加していただいた方のアンケートも取りましたので、御紹介させていただければと思います。「公民館を盛り上げるイベントとしては有効かもしれない」「社会教育としての視点からの活動として行っているのかどうか、そこが大事な点なので、ぜひその

視点を示してほしい」「行動変容という言葉に少し引っかかりを感じるものがある」「少し情報が不足しているように感じた」「社名認知に公民館を利用するように感じてしまった」「企業の社会貢献活動の事例を学ばせていただきました。老人クラブ連合会では既に活用事例があるようですので、ぜひお互いにウィン・ウィンになる社会的価値創造の利活用を図っていける取組を推進したいと思いました」など、様々な視点から意見はあったものの、ほとんどの方には満足いただいているという現状です。

最後に、今後の研修会の在り方ではありますけれども、現状の公民館の在り方も含めて、都内、全国でどのような状況になっているのか、調布の公民館はどうあるべきなのかなどということも含めながら、例えば明治安田生命さんのほうに、うちが持っている課題であるとか、そういうものを振って、オリジナルのものを改めてつくってもらうというのも一案ですし、従前、いろいろな御関係で御登壇いただいた先生方からまた改めて現状をお話しいただくということもあるので、様々な御意見があらうかと思しますので、第33期のときに皆様からまた改めて御提案もいただければと思っております。

以上です。

○八田副委員長 では、1点目の資料の工夫に関しては、次年度に向けて御検討いただければいいのではないかなと。

あとは、明治安田生命さんの内容は、利用できる講座だとか、連携できるものがあれば、民の力を活用するというのはありだと思いますし、無理にやる必要もないので、状況に応じてウィン・ウィンになればいいのだらうと思しますので、今後に向けて、可能性があればそういうことでよろしくをお願いします。

○安部委員長 ほかにございませんか。石井委員。

○石井委員 各公民館とも内容がいろいろ盛りだくさんですばらしいと思います。そして、この参加人数なのですけれども、数字にはちゃんと出てきていますが、この内容が一部の人に限られるのか、リピーターというか、同じものに何回も参加しているのか、それとも広くいろいろな人が参加しているのか、この辺に興味があるのですけれども、いかがでしょうか。

○安部委員長 丸山館長。

○丸山東部公民館長 東部公民館では、各事業においてリピーターなのかリピーターではないのかというのは、今すぐには分かりかねる部分があります。事業によっては、リピーター以外の、例えばこの講座に近い講座を以前やっていて、改めて同じような講座を

やる場合には、初参加の方が優先ですよというところで、やはり新たな人たちを呼び込むというか、事業に参加してもらおうという工夫はしているところです。大体市民の方優先であるとか、初参加を優先にするというところに重きを置いて事業展開を図っているところでもあります。

以上です。

○安部委員長 福澤館長。

○福澤西部公民館長 西部公民館ですけれども、例えば音楽講座なら音楽講座を、別の時期に違う内容で複数回実施した、そういう場合は、音楽が好きな人は、やはりリピーターのように来る方が多いのではないかと、この方、顔を見たことがあるなという感じではあります。

また、歴史が好きな方は、歴史講座があるから、私、今日、西部に行って、あした北部に行くのよという人もいます。大きなジャンルでのリピーターが多いのかなと思っております。

以上です。

○安部委員長 小川館長。

○小川北部公民館長 北部のほうも、私のほうでは今リピーターなのか、いろいろな方が来ているのかというのは、ちょっとすぐには分からないところです。今、西部の福澤館長からもありましたように、やはり講師であったり、講座の内容であったりで、同じ方が来ているというのは4月以降も見かけているので、そういう方はいるかなと認識しております。

○石井委員 分かりました。ありがとうございます。

○安部委員長 ありがとうございます。ほかにございませんか。稲留委員。

○稲留委員 くどい話ですけれども、さっきの青少年の団体の話なのですが、分類表では団体と書いてあるから、子どもたちだけ集まってもここに数字が載らないという話でしたよね。それを団体でなくても、青少年を中心にしてやっているのは、分類の団体という文字、子ども会とかを取って、青少年ということだけにしたらどうかと思ったりもするのですが、ちょっと御検討いただいたらどうでしょう。今ではなくても結構です。

○安部委員長 ただ、公民館の場合には登録団体がありますので、社会教育登録団体とか、それで子ども会とかと分けられていると思うのです。今、子どもだけの参加はできないのです。

○稲留委員　ただ、その中心だったら、ここの総括のところにも、事業計画にも、青少年教育とか成人教育とか高齢者教育と書いてありますよね。そうすると、青少年教育が大切なのであって、団体であるかどうかよりも、青少年教育をするかどうかのほうが大切なような気がするので、団体だけに限ってやるというのもどうかなという気がしたので、ちょっと御検討いただければと思います。今ではなくて結構です。

○安部委員長　よろしいですか。

○丸山東部公民館長　いわゆる登録をしている団体と、館が主催で青少年教育の項目を打つのは少しカテゴリーというか、区分けの違いだと思うのです。あとは見方の問題なのかなというところでもありますので……

○稲留委員　法律でも何でも青少年教育とか何かそういう書き方をしていますよね。団体に限って書いていないのだから、素直にやったほうがいいのではないかと個人的には思いました。検討していただければ結構ですから。この場では結構です。

○安部委員長　4時をちょっと過ぎそうなのですけれども、皆さん、大丈夫でしょうか。よろしいですか。——ちょっとほかになければ、私1点よろしいですか。

皆さん、それぞれの館での多彩な事業展開は本当にうれしいことなのですが、利用者団体の連絡会であったり、利用者懇談会がそれぞれの館でもあって、地域文化祭とかにも力を発揮していただいていることは御承知のとおりだと思うので、西部や北部についてはその記載があります。東部公民館については、その記載が少ないというか、ほとんどないと思うのです。今回、東部公民館は50周年事業をされるということで、利用者連絡会であったりとか懇談会の中で、どのような意見が反映されてきているのか。この後に説明がある記念フェスティバルとかに向けて皆さんの合意形成なり、それから、イメージキャラクターとかもあるみたいなのですけれども、どのように市民参加でそういうことが検討されてきたのかなというのが、この報告の中では全く見えてこないものですから、御説明をお願いしたいと思います。

○丸山東部公民館長　公民館の50周年を迎えるに当たって、私が着任したときには、6月にフェスティバルを実施することは決定していました。この場では、令和6年第6回の定例会において、令和7年度の事業計画でフェスティバルや記念誌を発行しますという御説明はさせていただいているところです。

市民参加のところについては、市民の方、特に登録をしている団体や利用者の懇談会において、お話をある程度お示しして合意形成をしているところでもあります。すべからく市

民参加ということで事業計画を立てるとなると、例えば記念誌だったりとか、こちらのフェスティバルであったりとか、その部分について市民からの御意見がなかったので、記念誌を作らないかということとは、なかなか現実的ではないと考えております。

東部公民館においては、30周年の歩みを作りました。40周年についてはやっておりますけれども、西部公民館さんは、もともとやるおつもりではなかったという話では聞いておりますが、40周年の歩みを作ったというところであります。50周年については半世紀という節目の年でもありますので、地域の皆様といろいろと作っていきたいということで、既にこちらは登録団体の方と編集会議を行っております。令和7年度になってからでは遅いような状況ではあるので、ある程度、公民館が主体の部分で先行してやるべきところはやらないと、すべからず事業展開ができなくなるとは認識しているところです。

ですので、フェスティバルについても、ある程度は大きなくりの部分はつくりながら、実際に事業に参加されている方たちと一緒に、当日に御参加いただいて御苦労いただいたりとか、地域の桐朋女子中・高生にクイズをやっていたりとか、そのような事業展開を考えているところです。

以上です。

○安部委員長　　せっかくの50周年という大きな機会なので、西部のほうでもいろいろとイベント、事業とか企画されて実施されてきたりとかしていますので、東部公民館でも今までの50年の歩みを踏まえた事業計画というか、事業の内容をもう少し考えていただいて、市民の方々とどのように盛り上げていけるのか、やはり地域の中の公民館の在り方としてはとても大事なことだと思いますので、お願いしたいと思います。

やはり事業報告の中で、西部や北部にも書かれているような団体の会議が行われているのならその記録、いつ行ったかというのを、何か4月だけで終わってしまっているのも、ほかにもされていると思いますので、その辺の報告はぜひお願いしたいと思います。

以上です。

ほかにございませんか。八田委員。

○八田副委員長　　今、委員長がおっしゃったのは、東部の記録にももう少し補足があったほうがいいのか、西部さんと北部さんで見比べると、もう少し付記してはどうだろうかということなので、踏まえて次回以降、調整をすればいいのではないかと思います。よろしくお願いします。

○安部委員長　　ほかにございませんか。いろいろと盛りだくさんであるものですから、

次に行ってよろしいでしょうか。

（「なし」の声あり）

それでは、次に(7)社会教育委員の会議についての報告をお願いいたします。丸山館長。
○丸山東部公民館長　　続きまして、社会教育委員の会議、令和6年度第6回について御報告いたします。

なお、第5回は武蔵野プレイスを視察したとのことです。

資料7をお願いします。第6回定例会は、令和7年3月18日火曜日午後1時30分から教育会館302・303研修室で開催されました。議題につきましては、記載のとおり、まず(1)議事事項、調布市社会教育関係団体の登録（新規）について、1団体が認定されました。次に、(2)報告事項、アは関連する機関の研究、交流、研修会。イ、令和7年調布市二十歳のつどいについて。(3)情報共有事項、公民館運営審議会定例会。(4)その他、イ、東京都市町村社会教育委員連絡協議会ブロック研修会について報告がされました。

最後のブロック研修会については、調布市は第5ブロックの幹事市であり、令和7年11月9日日曜日に市内で開催予定とのことです。

その他、記載のとおりです。

説明は以上となります。

○安部委員長　　ありがとうございました。何か御質問等ございますでしょうか。

（「なし」の声あり）

なければ、続きまして、日程第2、その他、(1)は先ほど終わりましたので、割愛させていただきます。

それから、(2)令和7年度調布市公民館運営審議会開催日程（予定）についてお願いいたします。

○丸山東部公民館長　　それでは、令和7年度調布市公民館運営審議会開催日程（予定）について御説明いたします。資料8をお願いいたします。

前回の定例会でお示ししましたが、第5回の定例会の日程が変更となっておりますので、御承知おきください。

説明は以上となります。

○安部委員長　　それでは、ただいまの開催日程の報告について皆様、御承知おきください。

続きまして、(3)東部公民館開館50周年について、丸山館長からお願いします。

○丸山東部公民館長　それでは、東部公民館開館50周年について御説明いたします。

令和7年度事業計画の重点項目でもお示ししましたがけれども、東部公民館は半世紀、開館50周年を6月に迎え、フェスティバル開催などの御説明をいたしているところです。プログラムがある程度、確定しましたので、資料9のとおり、お知らせいたします。本審議会委員の皆様には、万障お繰り合わせの上、御出席賜りますようよろしくお願いいたします。

その他、イメージキャラクター、イメージソングなども含めて、デジタルサイネージやSNSを活用した情報発信、記念誌の発行、冠事業の実施、地域文化祭内での企画など、様々な媒体、機会を捉えて、仙川の地から市制施行70周年も含めて盛り上げていきます。

なお、後の(5)その他にて、動画等を御覧いただければと思いますので、楽しみにしていただければと思います。

説明は以上となります。

○安部委員長　ただいまの説明につきまして御質問等ございませんでしょうか。このチラシですね。ございませんか。

(「なし」の声あり)

続きまして、次回の定例会開催日程について、丸山東部公民館長。

○丸山東部公民館長　令和7年第3回定例会の予定でございます。次回は、令和7年6月24日火曜日午後2時から東部公民館で開催いたします。詳細につきましては、追って通知をさせていただきます。

以上です。

○安部委員長　それでは、(5)その他、各館から何かございますでしょうか。

○丸山東部公民館長　それでは、最後に50周年に関する先ほどの動画等を御覧いただければと思います。

初めに、50周年周知の動画です。東部公民館内、本庁舎2階、調布駅通路、セブンイレブンの前のデジタルサイネージで絶賛放映中です。

次に、イメージキャラクターの「ちょこぼん」です。「ちょこぼん」は、東部公民館の事業講師で、仙川在住の小野正統先生に描いていただきました。「ちょ」は調布の「ちょ」、「こ」は公民館の「こ」、「ぼん」はタヌキ、加えてチョコレート色の「ちょこ」のイメージで名づけました。

最後に、イメージソングを聞いていただきます。

(イメージソング)

お時間もあるので、ここら辺でイメージソングは終了させていただきます。

○八田副委員長 丸山館長が作ったの。

○丸山東部公民館長 これ、A I です。

○八田副委員長 すごいですね。

○丸山東部公民館長 詞はミスター公民館が作りました。

こちらが今デジタルサイネージで流しているところです。20秒という制約がある中で、これぐらいしか圧縮することができないと。

(50周年周知動画)

○八田副委員長 丸山館長、どこでこの画像が流れているのでしたっけ。

○丸山東部公民館長 本庁舎と調布駅を出て通路のところのセブンイレブンの前にデジタルサイネージがあります。

○八田副委員長 駅前広場口のほうに出ていく通路の右側のほうに。

○丸山東部公民館長 大きい映画のものではなくて、小さいほうで。あとは、東部公民館のほうで入り口を入ったところに、今まで太陽光パネルの電力量とかを出していたところを活用して、全3か所を出しているところです。

最後に、先ほどお話をした「ちょこぼん」です。

(イメージキャラクター)

様々な形でSNSも採用し、情報発信をしています。いかがでしょうか。

○清水委員 調布はキャラクターが乱立……

○丸山東部公民館長 すみません、お時間長くなりまして申し訳ございません。

説明等々については以上となります。

○安部委員長 分かりました。

それでは、本日の日程は全て終了いたしました。これにて令和7年調布市公民館運営審議会第2回定例会を閉会いたします。皆様、長時間にわたりましてどうもありがとうございました。時間過ぎまして申し訳ございません。

閉会 午後4時22分